

2022年11月12日、第32回日本呼吸ケア・リハビリテーション学会学術集会（幕張）にて、当院呼吸器内科、三木啓資先生が優秀演題賞を受賞されました。

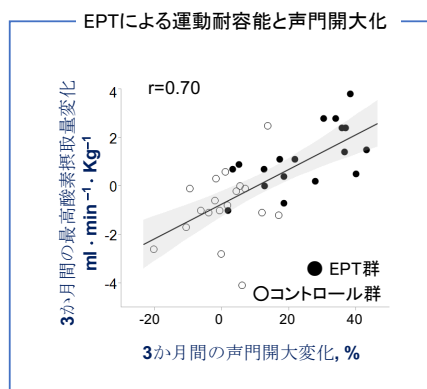
「運動に伴う声門閉塞がCOPDの運動耐容能および換気制限に影響する」

三木啓資¹, 福井 基成², 北島 尚昌², 住谷仁¹, 横山将史¹, 橋本和樹¹, 新居卓郎¹, 松木隆典¹, 橋本尚子¹, 辻野和之¹, 三木真理³, 木田博¹ (¹大阪刀根山医療センター呼吸器内科 ²医学研究所北野病院呼吸器センター ³徳島県鳴門病院内科)



要旨: 私たちは当センター独自の取り組みとして、比較的重症のCOPD患者さんに対するリハビリテーションに“呼気圧負荷トレーニング(EPT)”を取り入れ、実践してきました。これまでの私たちのデータから、EPTはCOPD患者さんの最高酸素摂取量*を増加させ、運動耐容能を改善させることが分かっています。今回の研究では、これ

まで着目されてこなかった声門の動きに着目した結果、COPD患者さんでは、運動中に声門閉塞が起きていること、COPD患者さんにEPTを行うと、運動中の声門閉塞を改善させ、最高酸素摂取量、運動耐容能を改善させることを示すことができました。（*最高酸素摂取量: 患者さんが運動中1分間に体重1kgあたり取り込むことができる酸素の最高値、運動負荷試験における呼気ガス分析で測定できる）



三木先生より一言: 2017年ある患者様から一言「動いてしんどいとき、口すぼめ呼吸をするより、ぱっと息をはいた方が楽だ」が本研究への糸口となりました。英語で心臓はHeart、呼吸はRespirationですが、HeartにはHear（耳を傾ける）とart（デザインする）、Respirationにはration（分配する）という言葉が隠されています。患者さんの一言に耳を傾け、研究をデザインし、新規治療概念の発信に繋がった本研究を、今度は社会実装（分配）に結びつけるため、現在、当センターでは息切れでお困りのCOPD患者さま(GOLD II~IV期)を対象に「慢性閉塞性肺疾患への呼気圧負荷トレーニングに対する運動療法の上乗せ効果-多施設無作為化コントロール比較試験-」を実施しております。何卒、宜しくお願い致します。

患者さんの一言に耳を傾け、研究をデザインし、新規治療概念の発信に繋がった本研究を、今度は社会実装（分配）に結びつけるため、現在、当センターでは息切れでお困りのCOPD患者さま(GOLD II~IV期)を対象に「慢性閉塞性肺疾患への呼気圧負荷トレーニングに対する運動療法の上乗せ効果-多施設無作為化コントロール比較試験-」を実施しております。何卒、宜しくお願い致します。